

株式会社 シンゲン家具工業



造り付け家具、脚物家具（ソファなど）の製造

代表者名 代表取締役 矢部 兵衛

設立年月日 1986年（昭和61年）1月21日

所在地 〒400-0047 山梨県甲府市徳行2丁目8番1号

T E L 055-226-6556

F A X 055-228-7912

E-Mail shingen@nns.ne.jp

U R L http://www.shingen-co.com/

業 種 家具・装備品製造業

資本金額 4,000 万円

従業員数 24 人

インタビュー



代表取締役
矢部 兵衛

テーマ 木工技術の分業化を目指し、作業工程の短縮と品質向上を実現

特注家具（造り付け家具）製品の高品質と短納期が求められている。機械装置の導入により、切断寸法が所定の精度 $\pm 0.1\text{mm}$ を満足し、作業工程に要する時間が従来の 54 分から 10 分程度に短縮することが確認できた。このことにより、高品質・短納期の生産加工工程の構築が図れ、市場における競争優位性を確立できるめどがたった。



導入した新しいパネルソー

株式会社シンゲン家具工業は、親会社である株式会社シンゲンなど県内外の木工所、工務店、内装工事業者からの受注を中心に家具の製造を手掛けている。売り上げ構成は造り付け家具が8割を占め、工場引き渡しの置き家具が残り2割となっている。

建築現場では近年、短納期対応やコストダウンへの意識が強くなっているほか、完成品として現場で組むだけで済む家具の納入が求められている。同社は特注家具の製作から取り付け施工まで一貫して行うよう心掛けており、特に納期が短いものは外注加工するなどして納品対応にあたっているが、こうしたニーズはますます高まっている。

また造り付け家具は、決められた外枠寸法内で取り付けることが要求される。複数枚の板を使う家具は、板1枚の厚みのわずかな差が枚数分、大きくなる。部屋の大きさが決まっている以上、家具をぴったりとおさめるには、板を切り出すところから高い精度で製造しなければならない。

一方、これまで保有していたパネルソー（NC制御切断装置）とNCルーター（加工装置）は型が古く、精度が低いため、目視や手作業で補う工程が多かった。なかでも「アール加工」と呼ばれ

る、家具の縁などに丸みをつける加工にはかなりの時間と手間を要していた。そこで同社は本事業を活用し、最新のパネルソーとNCルーターを南アルプス市内の甲西工場に導入した。

新しいパネルソーは、材料をデータ通りの寸法で早く正確に切断することができる。図面の作成についても、以前は外注委託か、顧客から直接提示された意匠図面や家具図面を印刷していたが、新しいNCルーターはCAD図面を自動で読み込んでくれる優れものだ。職人が手作業で行っていたプログラム入力工程を省くことができる上、技術的な問題点や加工方法の検討も随時、確認できるようになった。

長さ 3,000mm の板材から材料を切り出し、所定位置に削孔を行った検証では、作業時間は従来の 54 分に対し 10.2 分に短縮された。切断・削孔位置・削孔深の精度は、造り付け家具に必要とされる精度 $\pm 0.3\text{mm}/\text{m}$ を大きく上回る $\pm 0.1\text{mm}/\text{m}$ で切断できることが分かった。また、外注に頼らず自社で図面を作成できるようになったことも大きい。加工データを蓄積していくことで、今まで培ってきた技術やノウハウを最新設備と融合させ、親会社の既存ルートを活用した販売戦略を実施することが可能となる。



最新のNCルーター

東京都知事室や某テーマパークの家具も製造



甲西工場の外観

矢部兵衛社長は「新しい機械によって精度が上がりました。手間と時間がかかっていたアール加工も早くきれいに仕上がります。また最長3メートルまで切断できるので、今までより大きい家具を作りやすい体制になりました」と手応えを見せる。

新しい機械の導入は、そもそも「女性でも作業しやすいように」との思いから。「以前は熟練の職人頼みの作業があったり、手を汚しながら機械をセッティングしたりという場面もありましたが、今度はタッチパネルやマウスで操作できるので、女性の作業者にとっては受け入れやすいと思います」。

同社は昭和 61（1986）年創業。当初は県内の木工所から家具を買い取り、県外の家具量販店に押入

タンスを納入する家具問屋からスタートした。以降は家具製造に舵を切り、生産拠点として甲西家具工業団地協同組合に製造工場を建設。現在は、多品種少量品の特注家具を得意とし、親会社の株式会社シンゲンとともに積極的な営業活動を展開している。

仕事の7割は県外からの発注で、学校や保育所、ホテルのロッカー、げた箱、本棚、裁判所の法壇や法廷階段、議場、客室の洗面台、店舗カウンター…と幅広い。東京都庁の知事室のソファや某有名テーマパーク内のホテルの家具を手掛けたこともある。「相手に必要とされているならできるだけ力になりたい」との思いで取り組んでいる。



同社が手掛けたテーマパークの受付カウンター

県内最大規模の家具工場 強みは対応力の高さ



同社が施工したウエディング施設の設備。一般的に難しいとされる丸みのある加工が見事だ

ある時、頻繁に発注をもらう取引先に「なぜうちなのか」と何気なく尋ねたことがあるという。すると「シンゲンさんは断らないから」との返事が返ってきた。「リーマンショック以降、『ものづくりは自分のできる範囲でやればいい』と考えていたところがありました。でも一番大切なのは、高いとか安いということよりも『納期対応』と『技術対応』なのだとその時あらためて気付かされました」。

強みは、何と言ってもその対応力の高さだ。“材料屋”である親会社のシンゲンから材料を調達しているため、急な依頼にも対応できる。また造り付け家具の工場としては県内最大とも言える規模も特長。さらに、家具製造においては敷地の広さも重要なカギを握る。

現場に納める家具は、取り付け施工をする日に出荷日を合わせなくてはならないが、建築現場は天候などの諸事情で工期が遅れたり早まったりすること

がある。同社は 4,400 平方メートル以上ある広大な工場敷地を生かし、形状の大小や数量を問わず家具を製造しており、計画的に生産を進めながら出荷日に合わせて保管しておくことができる。ほかにも塗装の専用ブースがあり、染料から自社で色を作り出し、注文に沿った色に塗装できるのも強みだ。

人口減少や公共事業縮小という厳しい時代に事業を維持拡大していくためには、安定的に収益を上げていくことが求められる。同社は本事業の成果として5年計画で売上高 27.9%、付加価値額 20.3%、経常利益 1766.5%の増大を見込む。製作期間の短縮と、取り付け施工を含む高付加価値の製品供給により、少量品のさらなる受注獲得や同業他社との差別化、競争力強化が期待できそうだ。「今後も社員一丸となって学校や保育所、店舗などの非住宅に重きを置いた家具製造に取り組んでまいります」と意気込む矢部社長。今後も成長が楽しみなシンゲン家具工業がこの山梨の地から全国に羽ばたく日も近い。



広い倉庫で出荷の日を待つ製品